

要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**	要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**
要介護 3	⇔	要介護 4	0.00**				
要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**				
要介護 4	⇔	要介護 5	0.00**				

表 49 認定ごとの中間評価項目得点（第4群：特別な介護等）の多重比較：有意な差が生じなかった要介護度の組み合わせ

			P				P		
初回	非該当	⇔	要支援	1.00	3回目	非該当	⇔	要支援	1.00
	非該当	⇔	要介護1	1.00		非該当	⇔	要介護1	1.00
2回目	非該当	⇔	要支援	1.00	3回目	非該当	⇔	要介護2	0.10
	非該当	⇔	要介護1	1.00		要介護4	⇔	要介護5	1.00
	非該当	⇔	要介護2	0.16	4回目	非該当	⇔	要支援	1.00
	非該当	⇔	要介護1	1.00		非該当	⇔	要介護1	1.00
	非該当	⇔	要介護2	0.16	非該当	⇔	要介護2	0.18	
	非該当	⇔	要介護1	1.00	要介護4	⇔	要介護5	1.00	

(5) 中間評価項目得点の推移（第5群：身の回りの世話等）

「第5群：身の回りの世話等」の中間評価項目得点の平均値は、全体としては、初回は68.8点、2回目は67.8点、3回目は64.1点、4回目は59.7点と初回と2回目はあまり変化がみられず、2回目から3回目、3回目から4回目にかけて漸次、減少する傾向が示された。

また、要介護度別には、初回に非該当であった高齢者は、最初96.2点と高い得点であるが、2回目は79.8点とかなり低くなり、3回目は70.4点と上昇し、さらに4回目で66.1点とかなり低くなっていた。

初回に要支援であったものの平均値は、初回は93.5点、2回目は、89.2点、3回目は85.4点、4回目は80.7点と初回から4回目にかけて少しずつ低下していたが、すべての認定時において得点は、高かった。

初回が要介護1の場合も82.4点と高い得点で、2回目77.1点、3回目72.5点、4回目67.1点と示され、認定毎に漸次、低下していた。

初回が要介護2の場合は、59.9点で要支援、要介護1よりもかなり低かった。2回目58.9点、3回目54.5点、4回目49.8点と要介護1と同様に、認定回数が増えるにしたがって、得点は低下していた。

初回が要介護3のものは、39.8点と低かったが、2回目は46.5点と得点は高くなっていた。3回目は44.0点と低下し、さらに4回目は40.7と低下するが、初回の39.8点に比較すると高い得点を示していた。

初回が要介護4の得点は、22.3点と、要介護2、3よりもかなり低い得点であった。2回目は33.9点と上昇し、さらに3回目も34.2点と上昇が続いていた。4回目は32.0点と低下するが、初回よりも高い得点を示していた。

初回が要介護5のものは、要介護4よりも13.3点とさらに低かったが、2回目は31.4点と2倍以上に得点は高くなっていた。3回目も33.6点と上昇していた。4回目は32.7点と低下するが、初回の13.3点に比較すると2倍以上の高い得点を示していた。

このように要介護4と5の高齢者は、初回の点数がかなり低く、2回目に大きく得点が上昇することが特徴であった。しかも初回の得点が最も低い得点を示していた。

さらに、認定時別に要介護度別の中間評価項目得点を一元配置分散分析で解析した結果、初回から4回目の全ての認定で中間評価項目得点に有意な差が見られた。

しかし、要介護別に得点を比較すると、初回においては非該当と要支援、2回目においても非該当と要支援、非該当と要介護1、要介護4と要介護5の間には有意な差はなかった。3回目においては、非該当と要介護1、要介護4と要介護5の間には有意な差はなく、4回目においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、要介護4と要介護5の得点の間には、有意差はなかった。

表 50 中間評価項目得点の経年的推移（第5群：身の回りの世話等）

		初回	2回目	3回目	4回目
非該当 (N=23)	平均値	96.2	79.8	70.4	66.1
	標準偏差	9.9	21.6	28.9	31.5
	最小値	53.1	25.4	20.1	2.9
	最大値	100	100	98.3	98.3
要支援 (N=3,273)	平均値	93.5	89.2	85.4	80.7
	標準偏差	6.5	13.1	17.3	22.2
	最小値	41.7	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護1 (N=5,766)	平均値	82.4	77.1	72.5	67.1
	標準偏差	13.6	19.8	23.4	27.1
	最小値	25.4	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護2 (N=3,656)	平均値	59.9	58.9	54.5	49.8
	標準偏差	18.1	22.8	25.0	26.8
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護3 (N=2,043)	平均値	39.8	46.5	44.0	40.7
	標準偏差	16.0	23.2	24.9	26.0
	最小値	0	0	0	0
	最大値	95.9	100	100	100
要介護4 (N=1,060)	平均値	22.3	33.9	34.2	32.0
	標準偏差	13.1	21.7	23.1	23.5
	最小値	0	0	0	0
	最大値	98.3	100	98.3	98.3
要介護5 (N=335)	平均値	13.3	31.4	33.6	32.7
	標準偏差	9.9	21.2	22.9	24.9
	最小値	0	0	0	0
	最大値	54.9	92.1	100	100
合計 (N=16,156)	平均値	68.8	67.8	64.1	59.6
	標準偏差	26.7	26.5	28.1	30.1
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100

表 51 認定ごとの中間評価項目得点（第5群：身の回りの世話等）の分散分析結果

		平方和	自由度	平均平方	F 値	P
初回	グループ間	8406055.8	6	1401009.3	7214.455	0.00**
	グループ内	3136051.2	16149	194.2		
	合計	11542107.1	16155			
2回目	グループ間	4891255.8	6	815209.3	2029.427	0.00**
	グループ内	6486961.5	16149	401.7		
	合計	11378217.3	16155			
3回目	グループ間	4321415.3	6	720235.9	1375.159	0.00**
	グループ内	8457993.0	16149	523.7		
	合計	12779408.3	16155			
4回目	グループ間	3921173.0	6	653528.8	989.0683	0.00**
	グループ内	10670484.0	16149	660.8		
	合計	14591657.0	16155			

表 52 認定ごとの中間評価項目得点（第5群：身の回りの世話等）の多重比較：有意な差が生じた要介護度の組み合わせ

		P			P
初回	非該当 ⇔ 要介護 1	0.00**	3回目	非該当 ⇔ 要支援	0.04*
	非該当 ⇔ 要介護 2	0.00**		非該当 ⇔ 要介護 2	0.02*
	非該当 ⇔ 要介護 3	0.00**		非該当 ⇔ 要介護 3	0.00**
	非該当 ⇔ 要介護 4	0.00**		非該当 ⇔ 要介護 4	0.00**
	非該当 ⇔ 要介護 5	0.00**		非該当 ⇔ 要介護 5	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 1	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 1	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 2	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 2	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 3	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 3	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 4	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 4	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 5	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 5	0.00**
	要介護 1 ⇔ 要介護 2	0.00**		要介護 1 ⇔ 要介護 2	0.00**
	要介護 1 ⇔ 要介護 3	0.00**		要介護 1 ⇔ 要介護 3	0.00**
	要介護 1 ⇔ 要介護 4	0.00**		要介護 1 ⇔ 要介護 4	0.00**
	要介護 1 ⇔ 要介護 5	0.00**		要介護 1 ⇔ 要介護 5	0.00**
	要介護 2 ⇔ 要介護 3	0.00**		要介護 2 ⇔ 要介護 3	0.00**
	要介護 2 ⇔ 要介護 4	0.00**		要介護 2 ⇔ 要介護 4	0.00**
	要介護 2 ⇔ 要介護 5	0.00**		要介護 2 ⇔ 要介護 5	0.00**
	要介護 3 ⇔ 要介護 4	0.00**		要介護 3 ⇔ 要介護 4	0.00**
	要介護 3 ⇔ 要介護 5	0.00**		要介護 3 ⇔ 要介護 5	0.00**
	要介護 4 ⇔ 要介護 5	0.00**			
2回目	非該当 ⇔ 要介護 2	0.00**	4回目	非該当 ⇔ 要介護 3	0.00**
	非該当 ⇔ 要介護 3	0.00**		非該当 ⇔ 要介護 4	0.00**
	非該当 ⇔ 要介護 4	0.00**		非該当 ⇔ 要介護 5	0.00**
	非該当 ⇔ 要介護 5	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 1	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 1	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 2	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 2	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 3	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 3	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 4	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 4	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 5	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 5	0.00**		要介護 1 ⇔ 要介護 2	0.00**
				要介護 1 ⇔ 要介護 3	0.00**

要介護 1	⇔	要介護 2	0.00**	要介護 1	⇔	要介護 4	0.00**
要介護 1	⇔	要介護 3	0.00**	要介護 1	⇔	要介護 5	0.00**
要介護 1	⇔	要介護 4	0.00**	要介護 2	⇔	要介護 3	0.00**
要介護 1	⇔	要介護 5	0.00**	要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**
要介護 2	⇔	要介護 3	0.00**	要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**
要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**	要介護 3	⇔	要介護 4	0.00**
要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**	要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**
要介護 3	⇔	要介護 4	0.00**				
要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**				

表 53 認定ごとの中間評価項目得点（第 5 群：身の回りの世話等）の多重比較：有意な差が生じなかった要介護度の組み合わせ

			P				P		
初回	非該当	⇔	要支援	1.00	4回目	非該当	⇔	要支援	0.14
2回目	非該当	⇔	要支援	0.52	4回目	非該当	⇔	要介護 1	1.00
	非該当	⇔	要介護 1	1.00		非該当	⇔	要介護 2	0.05
	要介護 4	⇔	要介護 5	1.00		要介護 4	⇔	要介護 5	1.00
3回目	非該当	⇔	要介護 1	1.00					
	要介護 4	⇔	要介護 5	1.00					

#### (6) 中間評価項目得点の推移（第 6 群：コミュニケーション等）

「第 6 群：コミュニケーション等」の中間評価項目得点の平均値は、全体としては、初回は 89.7 点、2 回目は 88.7 点、3 回目は 87.0 点、4 回目は 84.4 点と初回から 4 回目まで漸次、低下していた。

また、要介護度別には、初回に非該当であった高齢者は、最初 98.9 点と高い得点で、2 回目も 93.5 点、3 回目も 92.1 点、さらに 4 回目も 89.4 点と、漸次、低下するが、すべての認定時において、これらの得点は、かなり高かった。

初回に要支援であったものの平均値は、初回は 97.2 点、2 回目は、95.6 点、3 回目は 94.3 点、4 回目は 92.3 点と初回から 4 回目にかけて少しずつ低下していたが、すべての認定時において得点は、高かった。

初回が要介護 1 の場合も 93.4 点と高い得点で、2 回目 91.5 点、3 回目 89.6 点、4 回目 87.3 点と示され、要支援と同様に認定毎に漸次、低下していた。

初回が要介護 2 の場合も、87.2 点と高い得点で、2 回目 85.8 点、3 回目 83.5 点、4 回目 80.6 点と要支援、要介護 1 と同様に、認定回数が増えるにしたがって得点は低下していた。初回が要介護 3 の得点は、81.3 点、2 回目は 81.1 点、3 回目 79.5 点、4 回目は、76.2 点と、これまでの要支援、要介護 1、2 と同様に認定回数が増えるにしたがって、得点は低下していた。

初回が要介護 4 の得点は、初回が 77.6 点と、要介護 2、3 よりも低かった。2 回目は 79.5 点と上昇し、3 回目は 78.4 と低下、4 回目も 75.3 点と低下していた。2 回目に得点が増えることが特徴である。

初回が要介護5のものは、初回から71.6点と、他の要介護に比較すると得点は低かったが、2回目は78.7点、3回目も79.0点と上昇していた。4回目は76.0点と低下するが、初回の71.6点に比較すると高い得点を示し、初回がもっとも低く、3回目まで得点が上昇していくことが特徴であった。

このように要介護3までの高齢者は、初回から4回目まで、漸次、低下していく傾向が示された。しかし、要介護4は初回の点数が低く、2回目に得点が上昇し、3回目、4回目と低下していた。要介護5においては、初回の点数がかなり低く、2回目、3回目までは上昇し、4回目で低下していたが、4回目の点数よりも初回のほうが低い得点であった。

さらに、認定時別に要介護度別の中間評価項目得点を一元配置分散分析で解析した結果、初回から4回目の全ての認定で中間評価項目得点に有意な差が見られた。

しかし、要介護別に、得点を比較すると、初回においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、2回目においても非該当と要支援、非該当と要介護1には有意差がなかった。

このほかに、2回目においては、非該当と要介護2、要介護3と要介護4、要介護3と要介護5、要介護4と要介護5の間にも有意な差はなかった。

3回目においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、要介護3と要介護4、要介護4と要介護5の間には有意な差はなかった。

4回目においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、要介護3と要介護4、要介護3と要介護5、要介護4と要介護5の間にも有意差はなかった。

このように、「第6群：コミュニケーション」に関する中間評価項目得点は、他の群と異なり、要介護度別の有意差において、要介護3と4、要介護度4と5の間の有意差がしめされていなかった。

表 54 中間評価項目得点の経年的推移（第6群：コミュニケーション等）

		初回	2回目	3回目	4回目
非該当 (N=23)	平均値	98.9	93.5	92.1	89.4
	標準偏差	2.4	11.6	12.5	13.6
	最小値	90.3	54.2	47.6	47.6
	最大値	100	100	100	100
要支援 (N=3,273)	平均値	97.2	95.6	94.3	92.3
	標準偏差	5.6	8.3	10.4	13.4
	最小値	48.5	31.7	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護1 (N=5,766)	平均値	93.4	91.5	89.6	87.3
	標準偏差	10.6	12.8	15.0	17.6
	最小値	28	19.7	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護2 (N=3,656)	平均値	87.2	85.8	83.5	80.6
	標準偏差	15.5	17.2	18.9	21.0
	最小値	25.1	0	0	0

	最大值	100	100	100	100
要介護 3 (N=2,043)	平均值	81.3	81.1	79.5	76.2
	標準偏差	19.6	20.4	21.5	23.7
	最小値	8.4	8.4	10.2	0
	最大值	100	100	100	100
要介護 4 (N=1,060)	平均值	77.6	79.5	78.4	75.3
	標準偏差	21.5	21.3	22.2	23.9
	最小値	0	0	0	0
	最大值	100	100	100	100
要介護 5 (N=335)	平均值	71.6	78.7	79.0	76.0
	標準偏差	26.2	23.2	24.1	25.1
	最小値	0	0	0	0
	最大值	100	100	100	100
合計 (N=16,156)	平均值	89.7	88.7	87.0	84.4
	標準偏差	15.4	16.2	17.8	20.1
	最小値	0	0	0	0
	最大值	100	100	100	100

表 55 認定ごとの中間評価項目得点（第6群：コミュニケーション等）の分散分析結果

		平方和	自由度	平均平方	F 値	P
初回	グループ間	697740.2	6	116290.0	599.6132	0.00**
	グループ内	3131965.0	16149	193.9		
	合計	3829705.2	16155			
2回目	グループ間	477688.2	6	79614.7	341.382	0.00**
	グループ内	3766156.0	16149	233.2		
	合計	4243844.2	16155			
3回目	グループ間	475690.7	6	79281.8	276.9998	0.00**
	グループ内	4622102.2	16149	286.2		
	合計	5097792.8	16155			
4回目	グループ間	557050.1	6	92841.7	252.3858	0.00**
	グループ内	5940509.4	16149	367.9		
	合計	6497559.5	16155			

表 56 認定ごとの中間評価項目得点（第6群：コミュニケーション等）の多重比較：有意な差が生じた要介護度の組み合わせ

			P				P		
初回	非該当	⇔	要介護 2	0.00**	3回目	非該当	⇔	要介護 3	0.01*
	非該当	⇔	要介護 3	0.00**		非該当	⇔	要介護 4	0.00**
	非該当	⇔	要介護 4	0.00**		非該当	⇔	要介護 5	0.01*
	非該当	⇔	要介護 5	0.00**		要支援	⇔	要介護 1	0.00**
	要支援	⇔	要介護 1	0.00**		要支援	⇔	要介護 2	0.00**
	要支援	⇔	要介護 2	0.00**		要支援	⇔	要介護 3	0.00**
	要支援	⇔	要介護 3	0.00**		要支援	⇔	要介護 4	0.00**
	要支援	⇔	要介護 4	0.00**		要支援	⇔	要介護 5	0.00**
	要支援	⇔	要介護 5	0.00**		要介護 1	⇔	要介護 2	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 2	0.00**		要介護 1	⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 3	0.00**		要介護 1	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 4	0.00**		要介護 1	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 5	0.00**		要介護 2	⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 3	0.00**		要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**		要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**		4回目	非該当	⇔	要介護 3
要介護 3	⇔	要介護 4	0.00**	非該当	⇔		要介護 4	0.01*	
要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**	非該当	⇔		要介護 5	0.03*	
要介護 4	⇔	要介護 5	0.00**	要支援	⇔		要介護 1	0.00**	
2回目	非該当	⇔	要介護 3	0.00**	要支援		⇔	要介護 2	0.00**
	非該当	⇔	要介護 4	0.00**	要支援		⇔	要介護 3	0.00**
	非該当	⇔	要介護 5	0.00**	要支援		⇔	要介護 4	0.00**
	要支援	⇔	要介護 1	0.00**	要支援		⇔	要介護 5	0.00**
	要支援	⇔	要介護 2	0.00**	要介護 1		⇔	要介護 2	0.00**
	要支援	⇔	要介護 3	0.00**	要介護 1		⇔	要介護 3	0.00**
	要支援	⇔	要介護 4	0.00**	要介護 1		⇔	要介護 4	0.00**
	要支援	⇔	要介護 5	0.00**	要介護 1		⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 2	0.00**	要介護 2		⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 3	0.00**	要介護 2		⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 4	0.00**	要介護 2		⇔	要介護 5	0.00**



要介護 1	⇔	要介護 5	0.00**
要介護 2	⇔	要介護 3	0.00**
要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**
要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**

表 57 認定ごとの中間評価項目得点（第 6 群：コミュニケーション等）の多重比較：有意な差が生じなかった要介護度の組み合わせ

			P				P		
初回	非該当	⇔	要支援	1.00	3回目	非該当	⇔	要支援	1.00
	非該当	⇔	要介護 1	1.00		非該当	⇔	要介護 1	1.00
2回目	非該当	⇔	要支援	1.00	4回目	非該当	⇔	要支援	1.00
	非該当	⇔	要介護 1	1.00		非該当	⇔	要介護 2	0.32
	非該当	⇔	要介護 1	1.00		非該当	⇔	要介護 3	1.00
	非該当	⇔	要介護 2	0.33		非該当	⇔	要介護 4	1.00
	非該当	⇔	要介護 2	0.10		非該当	⇔	要介護 5	1.00
	非該当	⇔	要介護 3	0.15		非該当	⇔	要介護 5	1.00
	非該当	⇔	要介護 3	0.15		非該当	⇔	要介護 4	1.00
	非該当	⇔	要介護 4	1.00		非該当	⇔	要介護 5	1.00

(7) 中間評価項目得点の推移（第 7 群：問題行動）

「第 7 群：問題行動」の中間評価項目得点の平均値は、全体としては、初回は 92.8 点、2 回目は 93.0 点、3 回目は 92.7 点、4 回目は 92.4 点と初回から 4 回目まで漸次、低下していた。

また、要介護度別には、初回に非該当であった高齢者は、最初 99.8 点とかなり高い得点で、2 回目も 97.1 点、3 回目も 96.7 点、さらに 4 回目も 95.4 点と、漸次、低下するが、すべての認定時においてかなり高い得点を示していた。

初回に要支援であったものの平均値は、初回は 97.3 点、2 回目は、96.6 点、3 回目は 96.0 点、4 回目は 95.4 点と初回から 4 回目にかけて少しずつ低下していた。

初回が要介護 1 の場合も 94.6 点と高い得点で、2 回目 94.1 点、3 回目 93.5 点、4 回目 93.0 点と示され、要支援と同様に認定毎に漸次、低下していた。

初回が要介護 2 の場合も、90.5 点と高い得点で、2 回目は、91.0 点と上昇し、3 回目 90.7 点とわずかに低下、4 回目も 90.6 点とわずかに低下していたが、初回から 4 回目まで、ほとんど変わらない得点であった。

初回が要介護 3 の得点は、87.4 点、2 回目は 89.3 点と上昇し、3 回目も 89.5 点と上昇するが、4 回目は、89.4 点とわずかに得点は低下していたが、2 回目から 4 回目までは、ほとんど同じ得点であった。

初回が要介護 4 の得点は、初回が 88.6 点、2 回目は 90.6 点と大きく上昇し、3 回目 90.9 点とさらに上昇し、4 回目も、91.0 点と上昇していた。2 回目以降に得点は上昇する傾向が示されたことが特徴である。

初回が要介護 5 のものは、初回が 90.8 点と 2 回目は 92.7 点、3 回目も 92.8 点と上昇していた。4 回目は 92.6 点とわずかに低下するが、初回の 90.8 点に比較すると、高い得点を

示し、初回がもっとも低く、3回目まで得点が上昇していくことが特徴であった。

このように要介護1までの高齢者は、初回から4回目まで、漸次、低下していく傾向が示された。しかし、要介護2からは、初回の点数が低く、2回目に得点は上昇していた。要介護4、5は、2回目、3回目、4回目と上昇しており、初回の認定の際にあった問題行動が認定を重ねるにしたがって消失していくために、得点が上昇するものと推察された。

さらに、認定の回ごとに要介護度別の中間評価項目得点の比較を一元配置分散分析で見たと、初回から4回目の全ての認定で中間評価項目得点に有意な差が見られた。

しかし、要介護別に、得点を比較すると、初回においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、要介護2と要介護5、要介護3と要介護4、要介護4と要介護5には有意な差はみられなかった。

2回目においても非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、非該当と要介護4、非該当と要介護5、要介護1と要介護5、要介護2と要介護4、要介護2と要介護5、要介護3と要介護4、要介護4と要介護5には有意差がなかった。

3回目においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、非該当と要介護3、非該当と要介護4、非該当と要介護5、要介護1と要介護5、要介護2と要介護4、要介護4と要介護5の間にも有意な差はなかった。

4回目においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、非該当と要介護3、非該当と要介護4、非該当と要介護5、要介護1と要介護5、要介護2と要介護4、要介護2と要介護5、要介護4と要介護5の間にも有意な差はなかった。

このように、「第7群：問題行動」に関する中間評価項目得点は、「第6群のコミュニケーション」と同様に、他の群に比較すると要介護度別の得点としては有意差がない項目であった。

表 58 中間評価項目得点の経年的推移 (第7群：問題行動)

		初回	2回目	3回目	4回目
非該当 (N=23)	平均値	99.8	97.1	96.7	95.4
	標準偏差	0.8	6.0	8.9	10.1
	最小値	97	72.5	64.5	65.8
	最大値	100	100	100	100
要支援 (N=3,273)	平均値	97.3	96.6	96.0	95.4
	標準偏差	5.5	7.1	8.2	9.2
	最小値	48.6	32.6	23.9	25.4
	最大値	100	100	100	100
要介護1 (N=5,766)	平均値	94.6	94.1	93.5	93.0
	標準偏差	9.5	10.3	11.2	11.8
	最小値	24	26.6	16.5	5.8
	最大値	100	100	100	100
要介護2 (N=3,656)	平均値	90.5	91.0	90.7	90.6
	標準偏差	13.3	13.3	13.6	13.6
	最小値	19.7	18	21.4	21.2

	最大値	100	100	100	100
要介護 3 (N=2,043)	平均値	87.4	89.3	89.5	89.4
	標準偏差	16.6	15.1	14.9	14.8
	最小値	20.9	20.7	2.6	15.5
	最大値	100	100	100	100
要介護 4 (N=1,060)	平均値	88.6	90.6	90.9	91.0
	標準偏差	15.3	13.8	13.6	13.6
	最小値	15.3	21.5	25.3	5.8
	最大値	100	100	100	100
要介護 5 (N=335)	平均値	90.8	92.7	92.8	92.6
	標準偏差	13.6	10.9	10.5	11.3
	最小値	27	41.9	38.7	36
	最大値	100	100	100	100
合計 (N=16,156)	平均値	92.8	93.0	92.7	92.4
	標準偏差	12.0	11.7	12.2	12.5
	最小値	15.3	18	2.6	5.8
	最大値	100	100	100	100

表 59 認定ごとの中間評価項目得点（第7群：問題行動）の分散分析結果

		平方和	自由度	平均平方	F 値	P
初回	グループ間	184588.6	6	30764.8	233.3406	0.00**
	グループ内	2129163.2	16149	131.8		
	合計	2313751.8	16155			
2回目	グループ間	99042.9	6	16507.2	125.1332	0.00**
	グループ内	2130322.9	16149	131.9		
	合計	2229365.8	16155			
3回目	グループ間	79141.2	6	13190.2	92.02184	0.00**
	グループ内	2314760.2	16149	143.3		
	合計	2393901.4	16155			
4回目	グループ間	63000.8	6	10500.1	69.23216	0.00**
	グループ内	2449246.4	16149	151.7		
	合計	2512247.2	16155			

表 60 認定ごとの中間評価項目得点（第7群：問題行動）の多重比較：有意な差が生じた要介護度の組み合わせ

初回	非該当	⇔	要介護 2	P	0.00**	3回目	要支援	⇔	要介護 1	P	0.00**
	非該当	⇔	要介護 3	0.00**	要支援		⇔	要介護 2	0.00**		
	非該当	⇔	要介護 4	0.00**	要支援		⇔	要介護 3	0.00**		
	非該当	⇔	要介護 5	0.01*	要支援		⇔	要介護 4	0.00**		
	要支援	⇔	要介護 1	0.00**	要支援		⇔	要介護 5	0.00**		
	要支援	⇔	要介護 2	0.00**	要介護 1		⇔	要介護 2	0.00**		
	要支援	⇔	要介護 3	0.00**	要介護 1		⇔	要介護 3	0.00**		
	要支援	⇔	要介護 4	0.00**	要介護 1		⇔	要介護 4	0.00**		

	要支援	⇔	要介護5	0.00**		要介護2	⇔	要介護3	0.00**
	要介護1	⇔	要介護2	0.00**		要介護2	⇔	要介護5	0.04*
	要介護1	⇔	要介護3	0.00**		要介護3	⇔	要介護4	0.03*
	要介護1	⇔	要介護4	0.00**		要介護3	⇔	要介護5	0.00**
	要介護1	⇔	要介護5	0.00**	4回目	要支援	⇔	要介護1	0.00**
	要介護2	⇔	要介護3	0.00**		要支援	⇔	要介護2	0.00**
	要介護2	⇔	要介護4	0.00**		要支援	⇔	要介護3	0.00**
	要介護3	⇔	要介護5	0.00**		要支援	⇔	要介護4	0.00**
2回目	非該当	⇔	要介護3	0.03*		要支援	⇔	要介護5	0.00**
	要支援	⇔	要介護1	0.00**		要介護1	⇔	要介護2	0.00**
	要支援	⇔	要介護2	0.00**		要介護1	⇔	要介護3	0.00**
	要支援	⇔	要介護3	0.00**		要介護1	⇔	要介護4	0.00**
	要支援	⇔	要介護4	0.00**		要介護2	⇔	要介護3	0.01*
	要支援	⇔	要介護5	0.00**		要介護2	⇔	要介護4	0.02*
	要介護1	⇔	要介護2	0.00**		要介護3	⇔	要介護5	0.00**
	要介護1	⇔	要介護3	0.00**		要介護3	⇔		
	要介護1	⇔	要介護4	0.00**					
	要介護2	⇔	要介護3	0.00**					
	要介護3	⇔	要介護5	0.00**					

表 61 認定ごとの中間評価項目得点（第7群：問題行動）の多重比較：有意な差が生じなかつた要介護度の組み合わせ

			P				P			
初回	非該当	⇔	要支援1	1.00	3回目	非該当	⇔	要支援1	1.00	
	非該当2	⇔	要介護5	0.66			非該当	⇔	要介護2	1.00
	非該当3	⇔	要介護4	1.00			非該当	⇔	要介護3	0.37
	非該当4	⇔	要介護5	0.14			非該当	⇔	要介護4	0.09
2回目	非該当	⇔	要支援1	1.00		非該当	⇔	要介護5	0.49	
	非該当	⇔	要介護1	1.00		非該当	⇔	要介護5	1.00	
	非該当	⇔	要介護2	1.00		非該当	⇔	要介護4	1.00	
	非該当	⇔	要介護4	0.23		非該当	⇔	要介護5	1.00	
	非該当	⇔	要介護4	0.16	4回目	非該当	⇔	要支援1	1.00	
	非該当	⇔	要介護5	1.00			非該当	⇔	要介護1	1.00
	非該当1	⇔	要介護5	0.54			非該当	⇔	要介護2	1.00
	非該当2	⇔	要介護4	1.00			非該当	⇔	要介護3	0.43
非該当	⇔	要介護5	0.23		非該当	⇔	要介護4	1.00		
非該当	⇔	要介護4	0.07		非該当	⇔	要介護5	1.00		
非該当	⇔	要介護5	0.10		非該当	⇔	要介護5	1.00		
					非該当	⇔	要介護4	1.00		
					非該当	⇔	要介護5	0.10		
					非該当	⇔	要介護5	0.64		

### 3.認定時点の要介護認定基準時間及び中間評価項目得点の比較

#### (1) 要介護認定基準時間の経年的推移（全体）

要介護認定基準時間と中間評価項目の得点について、初回と2回目、3回目、4回目の変化について分析した。この分析に際して、それぞれの得点について、対応のある T 検定を用い、初回の得点とそれぞれの回の得点を比較した。

この分析の結果、認定基準時間については、「初回と2回目」、「初回と3回目」、「初回と4回目」のそれぞれの結果について統計的に有意な差が示され、初回よりも2回目、3回目、4回目のほうが時間が長くなっており、介護の手間が増加していると推察された。

表 62 各認定時の要介護認定基準時間の記述統計

	平均値	標準偏差	最小値	最大値
初回	49.4	25.0	22	165
2回目	48.3	22.8	22	166
3回目	51.2	24.8	23	167
4回目	55.5	27.6	23	163

表 63 各認定時の要介護認定基準時間の比較（対応のある T 検定結果）

	t 値	自由度	P
初回と2回目	6.8	16155	0.00**
初回と3回目	-9.2	16155	0.00**
初回と4回目	-27.9	16155	0.00**

\*P<.05 \*\*P<.01

#### (2) 群別の中間評価項目の得点の経年的推移

中間評価項目の得点について、7群の群別に経年的に分析を行った結果、「第3群：複雑な動作等」の「初回と2回目」、「第4群：特別な介護等」の「初回と2回目」、「第7群：問題行動」の「初回と3回目」を除く、全ての群についての「初回と2回目」、「初回と3回目」、「初回と4回目」で統計的に有意な差が示された。

表 64 各認定時の中間評価項目得点の記述統計

		平均値	標準偏差	最小値	最大値
第1群:麻痺・拘縮	初回	84.1	19.0	0	100
	2回目	83.0	19.2	0	100
	3回目	82.2	19.7	0	100
	4回目	80.6	20.9	0	100
第2群:移動等	初回	80.5	21.2	0	100
	2回目	81.1	19.6	0	100
	3回目	78.8	21.4	0	100
	4回目	74.7	24.8	0	100
第3群:複雑な動作等	初回	57.3	26.5	0	100
	2回目	57.4	24.3	0	100
	3回目	54.4	25.0	0	100
	4回目	50.4	26.3	0	100
第4群:特別な介護等	初回	92.0	13.3	12.3	100
	2回目	91.9	13.0	9.6	100
	3回目	90.1	15.1	3.6	100
	4回目	86.9	18.6	0	100
第5群:身の回りの世話等	初回	68.8	26.7	0	100
	2回目	67.8	26.5	0	100
	3回目	64.1	28.1	0	100
	4回目	59.6	30.1	0	100
第6群:コミュニケーション等	初回	89.7	15.4	0	100
	2回目	88.7	16.2	0	100
	3回目	87.0	17.8	0	100
	4回目	84.4	20.1	0	100
第7群:問題行動	初回	92.8	12.0	15.3	100
	2回目	93.0	11.7	18	100
	3回目	92.7	12.2	2.6	100
	4回目	92.4	12.5	5.8	100

表 65 各認定時の中間評価項目得点の比較 (対応のある T 検定結果)

		t 値	自由度	P	
第1群:麻痺・拘縮	初回と2回目	8.9	16155	0.00	**
	初回と3回目	14.6	16155	0.00	**
	初回と4回目	24.0	16155	0.00	**
第2群:移動等	初回と2回目	-4.7	16155	0.00	**
	初回と3回目	10.9	16155	0.00	**
	初回と4回目	30.2	16155	0.00	**
第3群:複雑な動作等	初回と2回目	-0.7	16155	0.51	
	初回と3回目	15.2	16155	0.00	**
	初回と4回目	33.4	16155	0.00	**
第4群:特別な介護等	初回と2回目	0.5	16155	0.64	
	初回と3回目	16.7	16155	0.00	**
	初回と4回目	36.3	16155	0.00	**
第5群:身の回りの世話等	初回と2回目	7.1	16155	0.00	**
	初回と3回目	27.2	16155	0.00	**
	初回と4回目	46.3	16155	0.00	**
第6群:コミュニケーション等	初回と2回目	12.6	16155	0.00	**
	初回と3回目	27.9	16155	0.00	**
	初回と4回目	45.1	16155	0.00	**
第7群:問題行動	初回と2回目	-2.9	16155	0.00	**
	初回と3回目	1.9	16155	0.05	
	初回と4回目	5.5	16155	0.00	**

## 第6章 認定調査項目からみた要介護高齢者の経年的変化の比較

### 1. 基本情報の経年的変化

#### (1) 麻痺（左上）

全体として麻痺（左上）は、初回は、「なし」が14,139名（87.5%）、「あり」が2,017名（12.4%）であった。2回目は、「なし」が14,115名（87.6%）、「あり」が2,001名（12.4%）であった。3回目は、「なし」が14,047名（86.9%）、「あり」が2,109名（13.1%）であった。4回目は、「なし」が13,800名（85.4%）、「あり」が2,356名（14.6%）であった。

これらの結果、初回と2回目は、ほとんど変化なかったが、3回目に「あり」の割合が増加し、4回目にさらに増加していた。

要介護度別には、非該当から要介護度1までは、「麻痺なし」の割合が初回から、回数が増加するにしたがって、減少していたが、要介護2～5までは、「麻痺なし」の割合は、初回から2回目以降の「麻痺なし」の割合には、要介護度別に特徴があった。

初回から、2回目は、以下のように増加していた。要介護2は、84.5%から84.8%、要介護3は、80.5%から81.3%に、要介護4は、70.7%から74.0%へ、要介護5は、59.7%から76.1%といずれも増加していたが、要介護5の増加は、他の要介護度と比較して大きかった。

2回目から3回目および4回目への変化においては、要介護2、3、5においては、認定回数が増えるにしたがって減少していた。要介護2は3回目が84.6%、4回目が82.9%へ、同様に、要介護3は、80.2%、78.1%へ、要介護5は、75.2%、71.6%とそれぞれ減少していた。しかし、要介護4においては3回目も増加し、74.1%となっていたが、4回目は、71.4%と減少していた。要介護4、5においては、初回の認定において、「麻痺あり」の割合が他の認定時よりも高かった。

表 66 要介護度別麻痺（左上）「なし」の割合の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	96.4	91.5	84.5	80.5	70.7	59.7	87.5
2回目	100	95.5	90.2	84.8	81.3	74.0	76.1	87.6
3回目	95.7	94.7	89.5	84.6	80.2	74.1	75.2	86.9
4回目	95.7	94.1	88.1	82.9	78.1	71.4	71.6	85.4

#### (2) 麻痺（右上）

全体として麻痺（右上）は、初回は、「なし」が14,047名（86.9%）、「あり」2,109名（13.1%）であった。2回目は、「なし」が14,094名（87.2%）、「あり」が2,062名（12.8%）であった。3回目は、「なし」が14,002名（86.7%）、「あり」が2,154名（13.3%）であった。4回目は、「なし」が13,753名（85.1%）、「あり」が2,403名（14.9%）であった。

これらの結果からは、「麻痺あり」の割合は、初回よりも2回目にいったん減少し、3回



目、4回目と増加していた。

要介護度別には、非該当から要介護度1までは、「麻痺なし」の割合が初回から、回数が増加するにしたがって、減少していたが、要介護2～5までは、「麻痺なし」の割合は、初回から2回目以降の「麻痺なし」の割合には、要介護度別に特徴があった。

要介護2は、83.4%から84.2%に、要介護3は、81.3%から81.6%に、要介護4は、70.8%から74.8%へ、要介護5は、53.4%から70.1%といずれも増加していたが、要介護5の増加は、他の要介護度と比較して大きかった。

2回目から3回目および4回目への変化においては、要介護3、4、5においては、認定回数が増えるにしたがって減少していた。それぞれ、要介護3は、80.9%、79.1%へ、要介護4は、74.0%、73.9%へ、要介護5は、70.1%、69.9%と減少していた。要介護5においては、初回の認定における「麻痺あり」の割合が他の認定時よりも高く、麻痺（左上）と同様に、初回の状態が最も悪い傾向を示していた。

表 67 要介護度別麻痺（右上）「なし」の割合の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	96	95.9	91.0	83.4	81.3	70.8	53.4	86.9
2回目	96	95.0	90.0	84.2	81.6	74.8	70.1	87.2
3回目	91.3	94.0	89.4	84.2	80.9	74.0	69.9	86.7
4回目	100	93.4	87.8	81.8	79.1	73.9	65.7	85.1

### (3) 麻痺（左下）

全体として麻痺（左下）は、初回は、「なし」が8,167名（50.6%）、「あり」が7,989名（49.4%）であった。2回目は、「なし」が7,300名（45.2%）、「あり」が8,856名（54.8%）であった。3回目は、「なし」が6,424名（39.8%）、「あり」が9,732名（60.2%）であった。4回目は、「なし」が5,508名（34.1%）、「あり」が10,648名（65.9%）であった。

これらの結果、初回から4回目にかけて「あり」の割合が漸次、増加する傾向がみられた。要介護度別にも非該当から要介護度5までは、「麻痺なし」の割合は、初回から、回数が増加するにしたがって、減少していた。とくに非該当においては、初回の96%から、2回目70%と大きく減少していた。

表 68 要介護度別麻痺（左下）「なし」の割合（%）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	96	70.8	55.5	44.0	34.4	24.1	18.2	50.6
2回目	70	62.5	49.5	38.8	32.4	23.0	17.9	45.2
3回目	56.5	55.1	42.8	35.0	28.7	20.9	17.0	39.8
4回目	43.5	47.8	37.1	28.8	24.2	18.8	13.7	34.1

(4) 麻痺 (右下)

全体として、麻痺 (右下) は、初回は、「なし」が 8,255 名 (51.1%)、「あり」が 7,901 名 (48.9%) であった。2 回目は、「なし」が 7,363 名 (45.6%)、「あり」が 8,793 名 (54.4%) であった。3 回目は、「なし」が 6,424 名 (40.3%)、「あり」が 9,643 名 (59.7%) であった。4 回目は、「なし」が 5,508 名 (34.6%)、「あり」が 10,570 名 (65.4%) であった。

以上のように、初回から 4 回目と認定回数が増えるにしたがって、「麻痺あり」の割合も漸次、増加する傾向がみられた。

要介護度別にみると、非該当から要介護 4 までは、認定回数が増加するにしたがって、「麻痺なし」の割合は減少していた。とくに非該当においては、初回の 91% から、2 回目 65% と大きく減少していた。ただし、要介護 5 においては、初回の「麻痺なし」13.4% は、2 回目において 15.2% と増加し、さらに 3 回目も 16.4% と増加していた。4 回目は、14.0% と減少していたが、この割合は初回よりも高かった。したがって要介護 5 においては、3 回目において「麻痺なし」の割合が最も高く、初回が、最も低かった。

表 69 要介護度別麻痺 (左下) 「なし」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	91	71.5	55.8	44.9	35.4	25.2	13.4	51.1
2回目	65	63.2	49.5	39.2	33.5	24.0	15.2	45.6
3回目	56.5	56.3	43.1	35.4	28.9	21.6	16.4	40.3
4回目	47.8	48.3	37.7	28.7	24.9	20.7	14.0	34.6

(5) 麻痺 (その他)

全体として麻痺 (その他) は、初回は、「なし」が 14,298 名 (88.5%)、「あり」が 1,858 名 (11.5%) であった。2 回目は、「なし」が 14,238 名 (88.1%)、「あり」が 1,918 名 (11.9%) であった。3 回目は、「なし」が 14,072 名 (87.1%)、「あり」が 2,084 名 (12.9%) であった。4 回目は、「なし」が 14,000 名 (86.7%)、「あり」が 2,156 名 (13.3%) であった。これらの結果、全体としては、初回から 4 回目にかけて「麻痺あり」の割合が増加していた。

要介護度別にみると、非該当から要介護 3 までは、認定回数が増加するにしたがって、「麻痺なし」の割合は、減少していた。ただし、要介護 4 においては、初回の 84.1% から 2 回目、3 回目ともに 85.3% と増加し、4 回目で 84.5% と減少していた。

要介護 5 においては、初回の「麻痺なし」83.0% は、2 回目において 84.5% と増加し、3 回目は 84.2% と減少、4 回目も、83.0% と減少していた。

このように要介護 4 においては、2 回目、3 回目において「麻痺なし」の割合が最も高く、要介護 5 においては、2 回目が最も高かった。

表 70 要介護度別麻痺（その他）「なし」の割合（％）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	91.5	89.0	87.2	87.8	84.1	83.0	88.5
2回目	100	90.8	88.7	86.7	86.7	85.3	84.5	88.1
3回目	95.7	89.6	87.3	85.8	86.3	85.3	84.2	87.1
4回目	91.3	88.8	86.6	85.6	86.7	84.5	83.0	86.7

(6) 拘縮（肩関節）

全体として拘縮（肩関節）は、初回は「なし」が 13,526 名（83.7%）、「あり」が 2630 名（16.3%）であった。2 回目は、「なし」が 13,286 名（82.2%）、「あり」が 2,870 名（17.8%）であった。3 回目は、「なし」が 13,126 名（81.2%）、「あり」が 3,030 名（18.8%）であった。4 回目は、「なし」が 12,879 名（79.7%）、「あり」が 3,277 名（20.3%）であった。以上の結果からは、初回から 4 回目にかけて「拘縮あり」の割合が増加する傾向がみられた。

要介護度別には、要支援から、要介護 4 までは、初回から 4 回目の認定時まで、「拘縮（肩関節）なし」の割合は、漸次減少していた。非該当と要介護 5 においては、初回から 2 回目において、非該当は、87%から 91.0%と増加し、要介護 5 は、62.7%から 66.6%と増加していた。3 回目は、非該当は、69.6%と減少するが、要介護 5 は、66.6%と変化しなかった。4 回目は、非該当は、73.9%と増加していた。要介護 5 は、64.5%と減少していた。

表 71 要介護度別拘縮（肩関節）「なし」の割合（％）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	87	92.4	85.6	81.8	78.0	70.8	62.7	83.7
2回目	91	89.8	85.0	80.1	76.5	67.2	66.6	82.2
3回目	69.6	89.1	83.3	79.6	75.8	67.0	66.6	81.2
4回目	73.9	88.0	82.1	77.6	73.8	65.2	64.5	79.7

(7) 拘縮（肘関節）

全体として拘縮（肘関節）は、初回は「なし」が 15,098 名（93.5%）、「あり」が 1,058 名（6.5%）であった。2 回目は、「なし」が 15,035 名（93.1%）、「あり」が 1,121 名（6.9%）であった。3 回目は、「なし」が 14,975 名（92.7%）、「あり」が 1,181 名（7.3%）であった。4 回目は、「なし」が 14,805 名（91.6%）、「あり」が 1,351 名（8.4%）であった。

このように、全体としては初回から 4 回目にかけて、「拘縮あり」の割合が増加する傾向がみられた。

要介護別には、要介護 2 と 5 以外は、認定回数が増えるにしたがって、「拘縮なし」の割合が減少していた。しかし、要介護 2 は、2 回目の 91.1%から 3 回目に 91.4%と増加していた。要介護 5 は、初回 73.7%から、2 回目 81.5%と大きく増加していた。要介護 5 は、初回が「拘縮（肘関節）なし」の割合が 73.7%と最も低く、2 回目が 81.5%と最も高かった。

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	96	98.4	95.6	92.3	90.1	83.2	73.7	93.5
2回目	96	98.2	95.2	91.1	90.1	81.8	81.5	93.1
3回目	91.3	97.3	94.8	91.4	89.5	80.9	81.2	92.7
4回目	91.3	97.2	93.7	90.5	87.8	78.2	80.6	91.6

図 要介護度別拘縮（肘関節）「なし」の割合（％）の経年的変化（N=16,156）

#### (8) 拘縮（股関節）

全体として拘縮（股関節）は、初回は、「なし」が14,701名（91.0%）、「あり」が1,455名（9.0%）であった。2回目は、「なし」が14,676名（90.8%）、「あり」が1,480名（9.2%）であった。3回目は、「なし」が14,588名（90.3%）、「あり」が1,568名（9.7%）であった。4回目は、「なし」が14,371名（89.0%）、「あり」が1,785名（11.0%）であった。

以上のように、全体的には初回から4回目にかけて「拘縮あり」の割合が増加する傾向がみられた。

要介護別には、要支援から要介護2までは、認定回数が増加するにしたがって、「拘縮（股関節）」は漸次、減少していた。しかし、他の要介護度においては、例えば、非該当では、2回目は91%と減少するが、3回目に95.7%と増加し、4回目は87.0%とかなり減少していた。要介護3と4は、2回目にそれぞれ、88.4%、81.6%と増加するが、3回目に87.1%、80.4%、4回目にも84.6%、77.9%と減少していた。要介護5は、2回目79.1%、3回目80.3%と増加を続け、4回目で77.9%と減少するというパターンであった。要介護5は、初回において「拘縮（股関節）なし」の割合が最も低かった。

表 72 要介護度別拘縮（股関節）「なし」の割合（％）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	96.0	92.8	90.8	87.1	80.4	69.9	91.0
2回目	91	95.2	91.9	90.4	88.4	81.6	79.1	90.8
3回目	95.7	94.9	91.4	89.9	87.1	80.4	80.3	90.3
4回目	87.0	93.6	90.9	88.3	84.6	77.9	77.9	89.0

#### (9) 拘縮（膝関節）

全体として拘縮（膝関節）は、初回は「なし」が11,012名（68.2%）、「あり」が5,144名（31.8%）であった。2回目は、「なし」が10,642名（65.9%）、「あり」が5,514名（34.1%）であった。3回目は、「なし」が10,496名（65.0%）、「あり」が5,660名（35.0%）であった。4回目は、「なし」が10,218名（63.2%）、「あり」が5,938名（36.8%）であった。

このように、初回から4回目にかけて、全体としては、拘縮（膝関節）「あり」の割合が漸次、増加する傾向がみられた。